

(社会科・生活科)

主体的・対話的に社会科学習に取り組む子どもを育てる  
～ I C T 機器を活用して～

大阪市立香簀小学校 宇野朋子

1 研究主題設定の理由

本校では平成29年度より研究教科を社会科・生活科とし、「主体的・対話的に社会科学習に取り組む子どもを育てる～ I C T 機器を活用して～」を研究主題に設定し、2年間の研究に努めてきた。今年度は大阪市の学校教育 ICT 活用推進校に選定され、これからの時代において生活の一部となってくるタブレット端末など情報機器の活用能力を高めるとともに、子ども自らが課題を見つけ、協働学習によって解決していくための学習方法として、情報機器を積極的に活用できる子どもを育成することを目指すこととした。

2 研究の概要

(1) 問題解決の学習過程

大阪市小学校教育研究会社会科部が提唱する、1時間の学習における4つの学習過程に沿った問題解決型の授業を行うようにすすめる。

段階	段階でのねらい	段階での学習活動
つかむ	本時の学習問題を明確にとらえる。	生活の中の問題や、資料を手掛かりに学習問題をとらえ、問題を解決するための予想をたてる。
調べる	学習問題と関わる社会的事象の様子を詳しく調べる。	資料を選択し、読み取り、調べる。 調べたことを伝わりやすい方法で表現する。
考える	事象の持つ社会的意味を考える。	社会的事象のもつ背景、理由、因果関係、影響などを考える。集団で話し合うことを通して、個々の考えを深める。
ひろめる	学習してきたことを一般化させ、深化・発展させる。	これまでの学習をふり返ったり、自分の問題として考えたりする。

(2) I C T 機器の活用

I W B (インタラクティブホワイトボード・大型TV) や T P C (タブレット端末)、書画カメラなどの I C T 機器を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現する授業づくりを行う。NHK for school やデジタル教科書などのコンテンツを効果的に使用する。ヘッドセットを用い、個に応じた指導を行う。

(3) ノート指導

見開きをつかい、1時間の思考の流れがわかるノート指導をする。

めあて	考える活動
調べる活動	自分の考え
資料	
調べてわかったこと	まとめ・ふり返り

3 研究の成果と今後の課題

## (1) 研究の成果

### ① 問題解決の学習過程を意識した授業を行う。

「つかむ」「調べる」段階では子どもが主体的に学習にのぞめるような資料の提示や発問の工夫をするようにした。「調べる」学習を継続する中で「調べることが楽しい」「もっといろいろなことを知りたい」と、調べる活動になれてきて、新しいことを知るのが楽しくなっている児童が増えてきた。また、具体的な資料の提示により「考える」活動がより明確になり、充実したものとなった。対話的な学習活動の中から「ひろめる」活動へとつながっていった。

### ② ICT機器の活用を図る

NHK for school の映像や、社会科のデジタル教科書のグラフや写真などの資料を IWB に投影することで、子どもの興味・関心を高めることができた。また、考えたことを全体で共有したりできることでも IWB の活用は有効であった。

各クラス 1 台ずつ書画カメラを配置し、子どものノートやワークシートをすぐに IWB に投影して、クラス全体で共有することができ、対話的な学びに有効であった。

TPC を積極的に利用し、調べたことをまとめたり、調べたことを知らせたりすることができた。低学年の子どもも町たんけんに行ったときに TPC で撮った写真を見せたり、SKYMENU の発表ノートを作成したりして学習に取り組むことができた。

高学年の授業では、今年度導入したヘッドセットを利用して、NHK for school でプレイリストを作成し、ひとりひとり自分のペースで選択しながら学習する授業もでき、主体的な学びを進めるのに効果的であった。

5 年生の実践では「考える」活動の後半で実際に和歌山の米作り農家の方と Skype でつないでリアルタイムで交流をした。そのことで、学習を深めることができ、有意義な時間となった。

4 年生・6 年生の実践ではゲストティーチャーに来ていただき、授業実践を行った。6 年生の実践では、戦争について、その時代を生きた地域の体験者に話してもらうことで、ぐっと近い話になり、自分事としてとらえる学習ができた。ゲストティーチャーに来ていただくことが、深い学びにつながることを実感できた。ICT だけではなく本物に実際にふれる学習の大切さを学ぶことができた。

### ③ ノート指導

提示された資料から気が付いたこと、調べたことをノートにまとめて、「考える」活動につながっていく思考の過程が可視化できるようにすすめてきた。話し合っただけで分かった友達の考えを書いた後、「ひろめる」活動でもう一度自分の考えを書くことで、1 時間の学習の流れが見えるノート指導ができた。

## (2) 今後の課題

- 「つかむ」「調べる」場面で提示する資料や写真の精選
- 子ども達が自分の考えを持つことができるような発問の工夫。
- 子どもの発表や意見を整理し、適切にまとめて、見てわかるような板書の工夫
- ICT 機器のトラブルへの対応のための、指導者のスキルの向上。
- ゲストティーチャーを招いて授業を計画するとき、価値観形成が固定的なものにならないように、知識を一般化させていくようにする。